



令和6年(2024年)12月5日

環境性乳房炎を予防しましょう

環境性乳房炎は、土壌や糞便、牛床の敷料等の環境中に潜む菌が原因の乳房炎です。原因菌である環境性ブドウ球菌、環境性レンサ球菌、大腸菌群が多く検出された農場では、衛生対策を心がけましょう。

- ✓ 牛床を乾燥させ清潔に保つ(特に分娩舎)
- ✓ 搾乳衛生の徹底
- ✓ ストレスの軽減(暑熱対策、栄養の充足)

令和6年度 後期バルク乳検査結果

総生菌数	A 34%		B 40%		C 17%	D 9%
黄色ブドウ球菌	A 57%		B 6%	C 11%	D 26%	
環境性ブドウ球菌	A 6%	B 11%	C 9%	D 74%		
環境性レンサ球菌	A 40%		B 14%	C 11%	D 34%	
大腸菌群	A 34%		B 20%	C 20%	D 26%	
耐熱性菌	A 97%				C 3%	

判定基準 A:正常/目標 B:やや多い C:多い D:非常に多い

黄色ブドウ球菌(SA)は43%の農場で検出されました。
個体乳検査による感染牛の特定や、搾乳衛生は家保までご相談ください。
採材、検査のご協力ありがとうございました。